鳥取県指定有形民俗文化財
智頭の林業関係資料

地拵え、植え付け、下刈りに使われる林業用具

伐採後の林地では、新しい苗木の植栽を行うために、伐採木の枝葉や残木が取り除かれ、整地されます（**地拵え**）。その後、苗畑で生産された苗木を山に運び、トウグワを使って掘った穴に一定間隔で植えます（**植え付け**）。植え付け後は、植えた苗が良く成長するように、苗木の周囲の草木を除くこと（**下刈り**）が重要となります。

トウグワ（資料No.151）

除伐用オオガマ（上2つ）（資料No.157,158）
下刈りガマ(下)　（資料No.160）

除伐、枝打ちに使われる林業用具

高品質な木材生産のためには、植栽された林木の密度管理が欠かせません。そのために木が小さい時期にはオオガマを用いた除伐が行われ、木が大きくなるとノコギリ等での除伐、間伐が行われました。無節の木材生産にはナタを用いた枝打ちが必要です。

枝打ちナタ（資料No.76）

枝打ちナタ（資料No.77）

製材に使われる林業用具

丸太を板や角材に加工するためには、まず皮剥ぎが行われます。専用の皮剥ぎ道具が各種収蔵されています。また、木材を縦に挽く時には、マエビキノコと呼ばれる大型の専用ノコが使われました。

カマ（皮剥ぎ用鎌:資料No.55）

杉の皮剥ぎヘラ（竹）
（資料No.140,141）

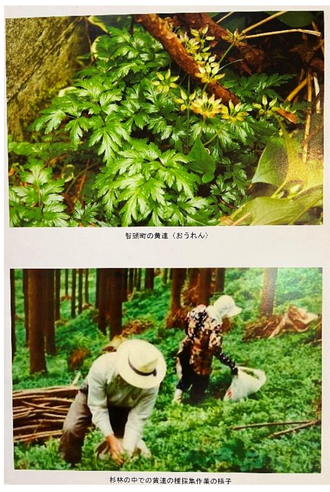
マエビキノコ（資料No.87）
木材を縦に挽くときに使われた大型のノコギリ。
刃渡り55.7cm。

特色ある林業用具（“イカダヨキ”と黄連栽培に使われた用具）

イカダヨキ（資料No.57）
山で切り倒した木材の搬出のため、智頭でもかつては、丸太をそろえて筏（イカダ）を組んで下流に運ぶ、「**筏流し**」が行われました。イカダヨキは、筏を組むための葛（カズラ）を通す穴を開けるために使われました。智頭で筏流しが行われたことを示す貴重な資料です。

黄連栽培

黄連（オウレン）はキンポウゲ科の多年生植物で、根系が健胃や整腸の漢方薬として用いられます。智頭では主に杉林の林床で栽培され、「**因州黄連**」として知られています。林業に付随する貴重な現金収入として盛んに栽培されました。収蔵されている資料は主に昭和30年代から現在に至るまで使用された用具類です。



黄連種まき籠（資料No.149）

黄連カギ（資料No.100）
黄連の根を掘り取るための専用道具。

黄連わけ機（資料No.163）
絡み合った黄連の根を分けるための道具で、特注品。